

当院では、新しい抗酸菌の発見が相次いでいます。

肺の感染症の原因となる菌の中には、一般的な検査だけでは正確な種類を判別することが難しいものがあります。特に「肺非結核性抗酸菌症（肺 NTM 症）」では、原因となる菌の種類が非常に多く、菌種によって病気の経過や治療薬の効き方が異なる場合があります。当院では、患者さん一人ひとりに適した診断と治療につなげるため、培養検査だけでなく、遺伝子解析などを用いた詳しい微生物検査に取り組んでいます。こうした詳細な検査を積み重ねる中で、当院の患者さんから分離された菌について詳しく解析した結果、これまで知られていなかった新しい菌種であることが明らかになった例があります。これまでに当院関わった新種は、

Mycobacterium toneyamaense

<https://www.microbiologyresearch.org/content/journal/ijsem/10.1099/ijsem.0.007219-tab2>

<https://link.springer.com/article/10.1186/s12879-020-05626-y>

Mycobacterium senriense

<https://www.microbiologyresearch.org/content/journal/ijsem/10.1099/ijsem.0.005378-tab2>

Tsukamurella toyonakaense

https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/28/7/21-2320_article

Mycobacterium novusgordoniae* & *M. shingordoniae

https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/31/3/24-0174_article

「菌の種類を細かく調べる事に、どんな意味があるのですか」と思われるかもしれませんが。抗酸菌やその関連菌は、種類によって次のような違いがあります。

- ・病気を起こしやすいかどうか
- ・効果が期待できる抗菌薬
- ・薬剤耐性の起こりやすさ
- ・治療が必要か、経過観察が可能か



そのため、原因菌をできるだけ正確に特定することは、適切な治療方針を考えるための大切な第一歩です。当院は、日常診療と研究の両面から呼吸器感染症の診断精度を高め、患者さん一人ひとりに、より適切な医療を提供できるよう取り組んでいます。